

浅田大樹, 岡田健一, 松澤昭東京工業大学理工学研究科



- 研究背景
- ・キャパシタクロスカップル
- 3段差動電力増幅器
- 測定結果
- 結論

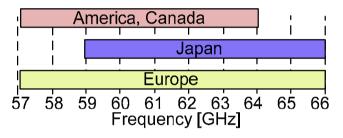


TOKYO TECH Pursuing Excellence

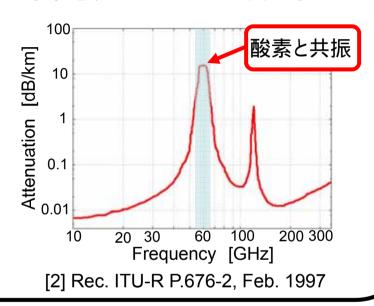
ミリ波帯の中でも特に60GHz帯は低電力ならば世界的に

無免許で使用することが可能

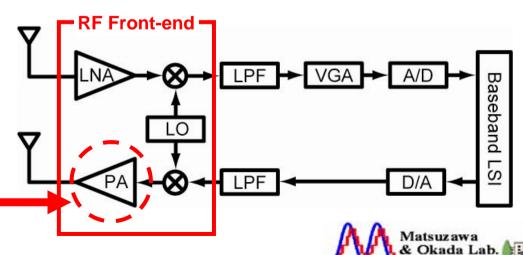
Available Frequency without License



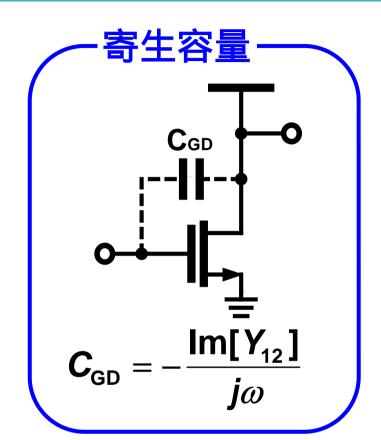
[1] 総務省 電波利用HP http://www.tele.soumu.go.jp/index.htm

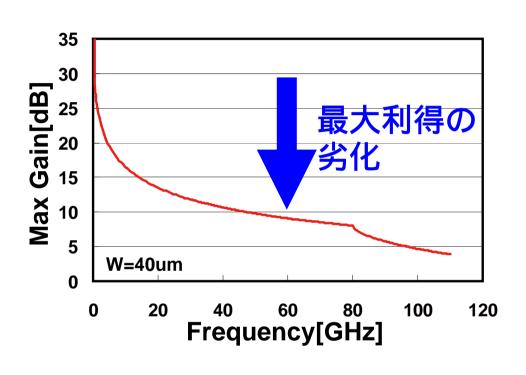


_ 電力増幅回路 _ 送信信号を増幅。 高利得と安定性が 必要





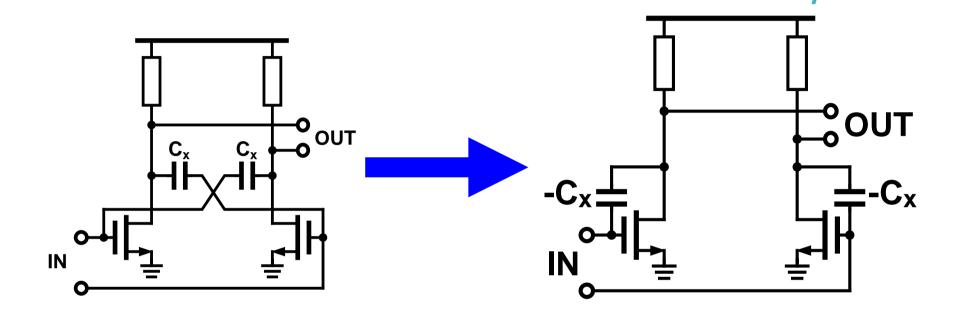




- ・ミリ波帯では寄生容量の影響が大きい。
 - フィードバック増加→最大有能電力利得と安定性が劣化



Pursuina Excellence

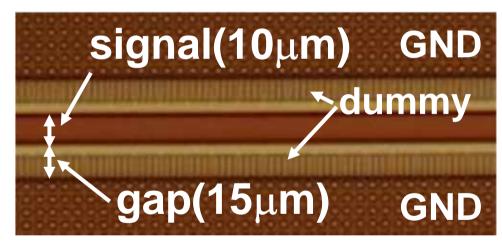


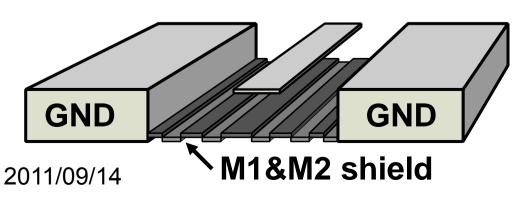
- ゲート-ドレイン間の寄生容量と同程度のサイズのキャパシタを差動対の間に挿入する。
 - 寄生容量の中性化が可能。

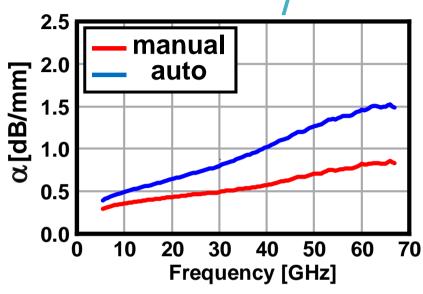


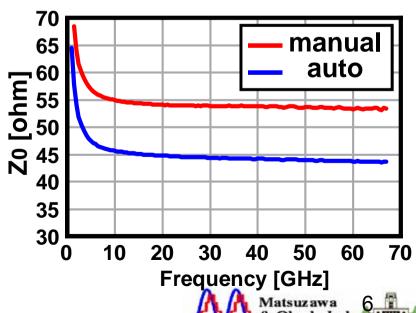
Pursuing Excellence

- 0.8dB/mmの低損失
- ダミーを手置きすることで 性能や精度を向上





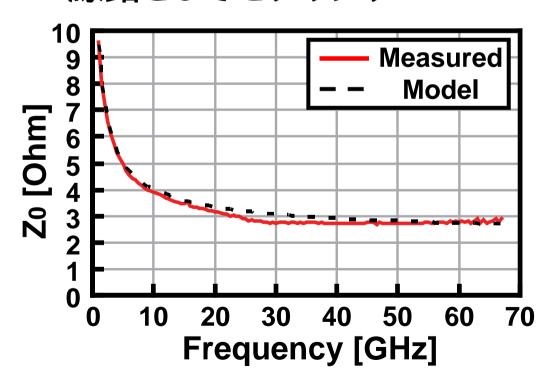


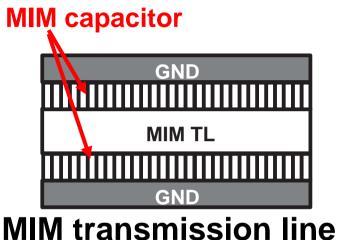


MIM TL

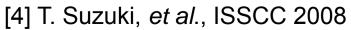


- 短冊状のMIMキャパシタを配した 線路をデカップリングとして利用
- 特性インピーダンスの低い伝送 線路としてモデリング

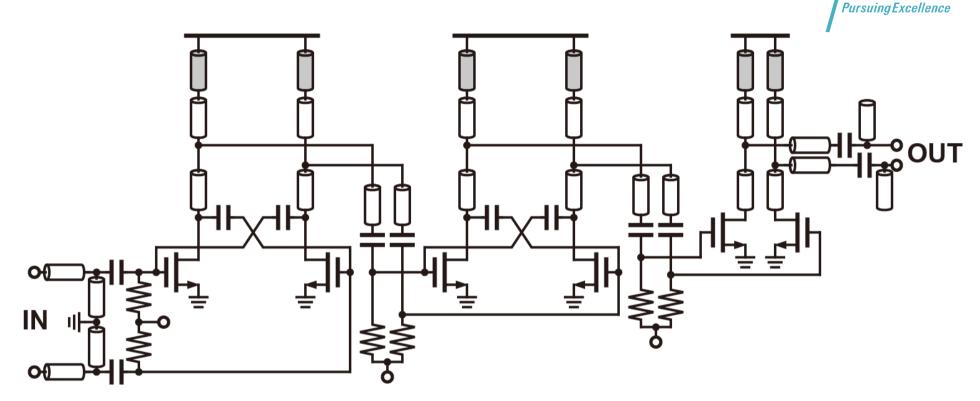




 $\frac{\text{GND}}{\text{TL}}$ $\frac{\text{GND}}{\text{50}\Omega} \text{ transmission line}$





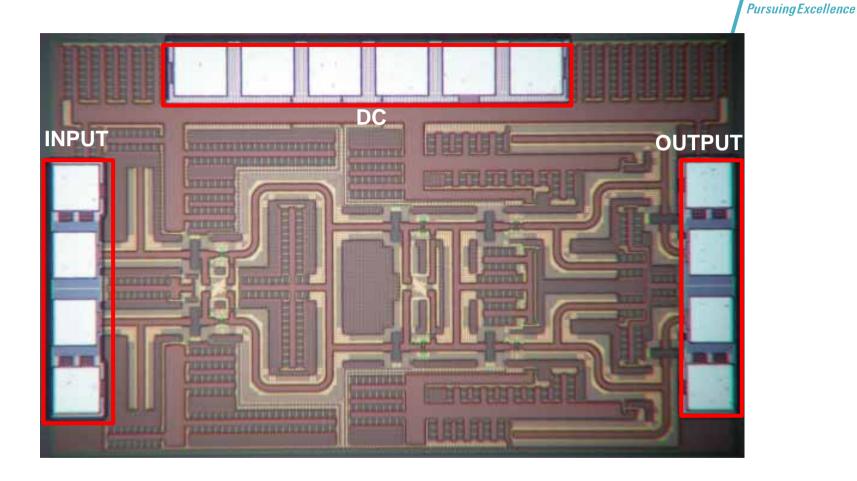


- ・ コモンソース型3段差動電力増幅器
- ・ 1段目と2段目にキャパシタクロスカップルを適用
- 整合回路を伝送線路で構成
- デカップリングキャパシタとしてMIM TLを使用



TOKYO TECH

チップ写真

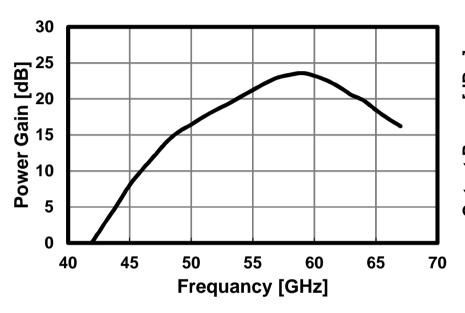


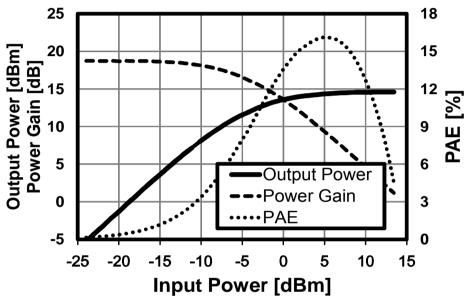
• 面積: 1.0mmx0.6mm



測定結果







• 電力利得: 23.2dB

• P_{sat}: 14.6dBm

P_{1dB}: 10.0dBm

• 消費電力: 135mW (V_{dd}=1.2V)

Peak PAE: 16.3%



	Power Gain [dB]	P _{1dB} [dBm]	P _{sat} [dBm]	Peak PAE [%]	Power [mW]	V _{DD} [V]
ISSCC 2008[5]	5.5	9	12.3	8.8	-	1.0
ISSCC 2009[3]	16	2.5	11.5	11	43.5	1.0
ISSCC 2010[6]	20.6	18.2	19.9	14.2	-	1.2
ISSCC 2010[7]	19.2	14.1	17.7	11.1	480	1.0
ISSCC 2010[8]	14.3	11	16.6	4.9	732	1.2
本研究	23.2	10.0	14.6	16.3	135	1.2

・電力付加効率(Peak PAE)において 高い性能を達成した。

[5] D. Chowdhury, ISSCC, 2008 [6] C. Y. Law, ISSCC, 2010

[7] J. Lai, ISSCC, 2010 [8] B. Martineau, ISSCC, 2010



低損失な伝送線路とキャパシタクロスカップ ルを用いた高効率な60GHz帯差動電力増 幅器を試作し、電力利得23.2dB、1-dB利 得圧縮点における出力電力10.0dBm、最 大出力電力14.6 dBm、最大電力付加効率 16.3%の性能を確認した。特に最大電力付 加効率は高い性能を達成した。